

地域の心意気一つに

山あいには笑い声響く 名物、豚の丸焼き登場

牧区川辺
山菜まつり



山菜の山が囲む会場に名物「豚の丸焼き」も登場

新緑の季節の恒例イベントとして定着している牧区の生き生きロマン川辺山菜まつりが3日、同区のやすらぎ

の里川辺牧ふれあい体験交流施設で行われた。地域活性化組織の原地区協議会(羽深栄一

会長)が会場施設の完成を機に始めた。羽深会長はあいさつで、かつては原地区8町内で800人の人口が、今年3月末の統計で106世帯、227人に減少したことを紹介。「地域は瀕死(ひんし)だが、負けないで8町内で頑張ろう」と今回の山菜まつりを位置付けた。

オープニングをにぎやかに飾った浦川原区を拠点に活動する保倉川太鼓演奏、雨天決行を決めていた意気込み、開会時間の延長の改善3点を強調。東京牧村会の鈴木勉会長の激励に続いて「がんばろー」コールで心意気を結んだ。会場にはテントが並び、大小のタケノコやウド、あずき葉など旬の山菜が山積み。地元さくら会による多彩な加工品類、春耕シーズンを思わせる農機具類も展示され、さまざまな食材の露店も人気を集めた。かつて評判だった「牛の丸焼き」に代わる「豚の丸焼き」が登場。炭火の上で回転しながら食欲を誘う匂いを漂わせていた。

地域を挙げたイベントとあつて終日のにぎわい。2回の太鼓演奏のほか、牧中学生による「よさこいソーラー」演舞、輪投げ、原はらターツ、ビンゴゲーム、餅つきなどが企画され、笑い声が山あいには響いていた。

母の「日」ギフト販売

糸魚川市、ブルーファン

生花などを取り扱う糸魚川市の「ブルーファン」(関澤恵子代表)は、12日の「母の日」ギフトとして、おしゃれな白黒ストライプの鉢カバーは「きれいな花をよりおしゃれに」と勧める。



加工した花を専用オイルに漬けたハーバリウムは、さまざまな色や花を長く楽しむ、インテリア雑貨として近年人気。光に照らすと一層引き立ち、窓際や照明の近くに飾るのがお勧めという。いずれも同市南寺町

感謝込めパフォーマンス

糸魚川市を拠点とするダンススクール「DANCE STUDIO LINK」(ダンススタジオリンク)「(田邊蒙代表)のスタジオ開設10年目を迎える。この間に同市上列1にスタジオを開設。現在は同市と上越市で各クラスを設け、幼児、小中高校生、社会人まで約100人。生徒と講師が一堂に会する発表会は毎年1回開き、今年の記

STUDIO LINK



チームで出演し、スタジオ開設5周年を繰り広げた

を高め新たなパフォーマンス舞台を繰り広げた。音楽、リズムを体で感じて踊る楽しさが会場全体に広がり、観客や仲間の声援も届いてステージと客席がつながってダンスシーンを盛り上げた。